

にいがた未来ビジョンで掲げた3つの都市像「安心協働都市」「環境健康都市」「創造交流都市」の実現へ向け、8年後の市民やまち、都市の姿と、それに向けた取り組みを11の政策で示しました。これらの政策に取り組むことで、新潟での豊かな暮らしを構築します。

=同ビジョンに基づき作られた新年度予算案の詳細は3面に掲載しています=

# 11の政策で 3つの都市像実現へ

## 都市像 I

### 市民と地域が学び高め合う、 安心協働都市



#### 政策 1 ずっと安心して暮らせるまち

身近な安全性の向上などを進め、高齢者をはじめ誰もが安全で快適に暮らせる地域づくりを行います。強い絆で結ばれた地域住民が互いに助け合い、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

#### 政策 2 男女共同参画の推進・子どもを安心して産み育てられるまち

市民が、安心して子供を産み育てることができるよう総合的に子育てを支援します。男女がともに仕事と子育てを両立できる環境づくりに取り組みます。

#### 政策 3 学・社・民の融合による教育を推進するまち

学校や地域が一体となり、市民一人ひとりが学び高め合うまちづくりに取り組むことで、自分の力に自信を持つ郷土愛豊かな子どもを育てます。農業体験など地域の特長を活かした教育環境を整備します。

#### 政策 4 地域力・市民力が伸びるまち

これまで培われてきた地域の絆を活かし、地域が固く結ばれ、地域力・市民力をさらに大きく伸ばす取り組みを進めます。また、地域づくりやまちづくりなど、さまざまな場面で活躍する人材を育成します。

## 都市像 III

### 日本海拠点の活力を世界とつなく、 創造交流都市



#### 政策 8 役割を果たし成長する拠点

本市が誇る農業や食をはじめとする個性と拠点性を活かし、魅力的な産業の創出と育成を図ります。また、太平洋側に偏っている機能の日本海側への移転に取り組み、本市の持続的な発展と大規模災害時における国土の安全度向上を実現します。

#### 政策 9 雇用が生まれ活力があふれる拠点

航空機産業や農業の6次産業化などの成長産業を育成し、魅力的な雇用の場を創出するほか、既存産業の高度化・創業支援なども行います。雇用の創出を図ることで首都圏からのU・I・Jターンにもつなげるなど、都市の活力増加を目指します。

#### 政策 10 魅力を活かした交流拠点

食と花、文化やスポーツなど本市が持つ魅力を最大限にアピールし、交流人口を拡大させます。また、優れた拠点性を活かし、人・物などの交流を盛んに行い、市内経済の活性化を図ります。

#### 政策 11 世界とつながる拠点

本市の魅力を国内外に発信し、世界と日本を結ぶ交流拠点として信頼されるよう、戦略的に国際交流を進めていきます。また、様々な分野での交流を創造することで、世界の非核・平和・共生に積極的に貢献していきます。

## 都市像 II

### 田園と都市が織りなす、 環境健康都市



#### 政策 5 地域資源を活かすまち

それぞれの地域が、食や文化などの地域資源を活かしたまちづくりを進め、農業体験を通じ、地域への誇りや愛着を育てます。6次産業化に加え、大地・農業の力を「子育て」「教育」「福祉」「保健・医療」「エネルギー・環境」「交流」に活かす農業の12次産業化を推進します。

#### 政策 6 人と環境にやさしいにぎわうまち

誰もが簡単に行き来できる楽しいまちなかとするため、持続可能な公共交通の整備を進めます。各地域の特色を活かしたまちなか活性化を図り、公共交通とまちなか活性、健康づくりを連動させ、誰もが健康になれるまちづくりを進めます。

#### 政策 7 誰もがそれぞれにふさわしい働き方ができるまち

豊かな自然や田園と都市が共存する本市の特長を活かし、魅力ある働く場を創出します。仕事を求める誰もが、それぞれにふさわしい働き方を選択し、社会で自己実現を果たすことができるようなまちづくりに取り組みます。



## 人口減少や少子・超高齢化へ向け、 多面的に取り組むを進めていきます

### ◆持続可能なまちづくりに向けた財政運営

人口減少、少子・超高齢化が進行することで、厳しい財政状況が見込まれるなか、将来世代に過度の負担を強いることがないよう、歳入と歳出のバランスに配慮しながら行政コストや将来負担などの情報を市民の皆さんと共有し、真に必要な分野を「選択」し、限られた経営資源の「集中」を図ります。

また、市有財産の効率的な管理・利活用の手法として施設の長寿命化やサービス水準を維持しながら多機能化・複合化を進めるファシリティマネジメントの考え方に基づいた財産経営を行っていきます。

### ◆「新潟暮らし創造運動」で人口流入を促進

新潟市においては、若者を中心とする首都圏などへの転出超過が大きな問題となっています。新潟と首都圏の暮らしに関する様々なデータを比較し、新潟の弱点の克服と、新潟暮らしの良さを伸ばす取り組みを進めると同時に、暮らしの良さを市内外にアピールする「新潟暮らし創造運動」を展開し、新潟で暮らす質の高さや豊かさを的確に伝えていくことで人口の流出を抑え、人口流入の促進を図ります。

# 新潟の可能性を切り開き、 21世紀にふさわしい暮らし方を新潟から構築